取時間間に百八十度強を切り

て見ても時代の央職を行き各革命、に踰滅し得さる重大問題である。 の本顔をなす眼野が、喰ふか喰は、智日西歐に於いて宗教と政治の彫

韓國家や共産成主航資主韓國家と 一番大切であるか、色人要都はあ 西峡の自由主砲國家すら順兵総氏をとりの一艘部魔主砲國家の寛木主』にするものである。人間は何が 郷は國民一人人々の帰跡である。

一番大切であるか、色々理像はあ西欧の自由主流図家すら順兵制度

**畑に研究すべきであるが、順時度** 

一次解析戦における敗因の主因は

ですべき音等取入もが其の責任の れてある我國も北はアリユーシャがないからであって必等は近を配 っても過言ではない。比較的根本

ン、南ソロモン、満洲支那大陸、

來世界から日本が軍國主義帝國と

戦に必須な軍事政線は平紫に比し

られ個人として最上の死場所を興へられたこと

**一般歌の説に唱**んだ寺選少尉は未だにその興 一般できれ、なほそのうへ殷眼のお海、煙草を飲き

製する響きが難々と留のやうな音を立てゝゐる けた母や兄姉に何ら報恩の個似事も出來ず、

を寒からしむるのである。

と00兵頭長閣下から

肉親へ最後の便り 費官らの行動によって南太平洋全米軍の心路

凡ゆる分野にはつて決河破竹の勢。難し思ひ半はに過ぎるものがあら、たか、その血みどろの歴史を順み

う。以下之等の人々の抱く根本理 る時學者が如何なる強織にも配せ

られてるた未解決の賭問歴が、

大東亞開戦と共に從來速旋動後れるかの死闘を踏けながら如何な

道に依つて如何に真理の探求が追

同一酸すべきではない。香等は此

らうが、私をして顧明率直に言は

を挑して徹兵を布かずして職争は

夜の問題も成この河流の種に僭(紋の一一に替れて私の所懐の一端)ず、年げられず、観迹思問の郷立 は、此の整駁が完勝に一途遭難し ある者は力を出せ」と要求したが、劉公に率ずると何せられた所以で

意識を真に把握する者であるなら、七号智慧やる者は智慧を出せ与力 れ教育物語に、二旦超景あれば敬 すべき比較があり、此の智殿の寅 は文部民衆に「金ある者は金を出 かに概法に 兵役の

の概なる國家の埋根を八雄に光微しむるならば生命である。蔣介石、出來ない現状ではないか。これ明より高度に修練されなばならぬ。

護路を宜せら 諸君は自己専門の思業の直務に拠

出配して多くの部下を指揮して武

を保持したいと云ふ願望は苦等もて理想世界を建設すべく職意を更

長級の「學校は豫備士官學校也」の

る場当の暦に対する抗闘) 等の生命財産自由徴

**駅上は何者よりも奪し** 

歌争は丘線はかりでは出來ない。
響夫が、食糧なくして、配は出來な。
電に當つては姚婉を執って全部立ではない。

式力賦は離力戦の第一競的のも

い事實で、ロシャ又然りである。人が威揚に出て大部の國民はその生

常職は何等的異から一歩も出てゐ

無ねるが、踏君の推察に任せる。

以とう尾崎士郎著

(向 裝 順)

数6 料・三五〇以 で11・110 〒11○

も依る。戦争の形態は一戦毎に大

硬革を來たしつゝあるのに一

さるものであるが るに今次戦争について一帆をとる

ならばソ際は人口一億七千萬の中

数には省略するとにする。今日こ

解が出來ると思ふが、

と難して生命を出すことを慌む時れば男も女も子供も老人も國家防 感を出すことが最も能率的である 行せずしていつあるか、必要とあ

か?銃か?

に肌揚すべきであって、米英に屈 ものは生命である。若し愚者が智 日あるか、

晋等の出し得るもので一番大切な ある。一旦遊談とは今を擅いて何 カ戦の最実態に立たねばならぬ軍

戦勇公に率すとは今宵

超然主張は、同情理解し得るも現實の

込まれ、趣制改革、之に伴ふ感夜を述べたいと

のと思ふ。然しど等に対して既然

を知らないで研究に熱中したといれ

唯一の經對有機的存

長崎博士が日韓戦争のあること 利生活等を保護せら

で吸く者があるとするならば、彼

の機相と世格を除り

に社會と認交渉で展問に取録した中に否等の存在が確 勿論これは事質でなく博士が如何 在である限り、その

と自偽する酸酸依然たる徒盛であ

求は図家を超越すべきものなり

きでない。宜しく斯の如き人は其が最も能率的で、

取力増弱に役立つ等々、之は暴徒

で最も観彩的で、効果的で画家の することを担否したらこうなるで、 圏に、アリューシャンに、ソロモ る。これ等は一部自己の立場を有 の政力戦の第二級に立つ総称に映ったうて戦をより有能な化源工業 はかりでは出来ない。私の技術的 は明日賦場に召され、然も惟朴た 過ぎて思想をなってものが顕成ななどであるが、第一域の長士と 要時代の恩友に現に受い、海に、 出して來えのは嘆はしいことであ る物意は感じするも式と共に明日の分野において御奉公申上げた方 鄙をでうちあげ、第一域の長士と 要時代の恩友に現に受い、海に、 出して來えのは嘆はしいことであ る物意は感じするも式と共に明日の分野において御奉公申上げた方 鄙をつうちめげ、第一域の長士と、その古代の恩友に現になって戦をより有能な化源工業 はかりでは出来ない。私の技術的 は明日賦場に召され、然も惟朴た 過ぎて思想版、經濟域が実力版は、らば最近が其の各部門に於いて戦になって戦からり有能な化源工業 はかりでは出来ない。私の技術的 は明日賦場に召され、然も惟朴た 過ぎて思想版)、経験域が実力版は、らば最近が其の各部門に於いて戦になって戦をある。

一勢力が必要だから工場に勝ると建一るべき人々ではないか。簡素の小・り重要なりとの試験でなす者が整一勝元義の鳥の敵奴撃凶なせんとす、爆災、英國の状況も派之を同等或一様がりでは出來ない。私の政権的、は明日賦場に召され、然も惟弁だ、過ぎて思想戦、經濟政が武力版よ。らば墨徳が其の各部門に於いて戦」して冬季攻勢をなしたのである。一職工が近代的飛行機も懸着の知識。の大部分、否全部がたい。 だいは、一般によび行き、関係であることは関かである。然 に一年間に七八百萬の補死動員を一職工が近代的飛行機も懸着の知識。の大部分、否全部かいった。

ちあがらねばならぬ。況んや駆使

の蔵範を理解し始めたのは跛に割りであるが、式力戦が心臓であり 

の数が心臓であり 一千萬以上の損失を昨年なし、既門に於いても然 約一千七八百萬の長員を動員して

守

大將は、瀕死するより生きて御影、敗止めることを許されるなら暮ん、か。縣徒のみが蜀り戦争の圏外に、き漢弦を愛腊して三百代官式議論、める現實に於いてなやである。

して一人副子を戦場に出すことを響威の罪と散ってゐる秋ではない。反軍的思想による故意的作為に基や異徒が國際の影解の主要部を占

あらうか、高資本家も自興國献金 ンに 顔兵として 吹嘘突戦をして 利にせんがための自己挑談若くは くる所があって

あので之に機ずるであらう。新くして、在ってその特徴を振り廻す秋であ

誰が第一線に載つて血を流し生命

らうか、

東思三等すべきである。

れの頭脳をもつて進歩的なり

速かにその風を駆時艦制新艦制に「助利打算主義」の西洋思想の二の

を汲む者である。第一の問題

と云ふ感問。超國家思想の「信念と の國家を去つて、彼際の希望する ない。此の母本思松は「資料の景」と認識することは関じて符さるべ

は思妙の厳風に吹きまくられた大。その存在を許容すべきでない。況。公申上げた方が忠節なりと、

んや金質無常、世界無比の季酸な 我々が日本人である以上は一日も

、あるか、この一度を彩へ

隊

寺 瀑

挺

身

髙

**見」除長の當番兵が迎へに來た、除長室である職男だ、計盤を練つてあるかも知れない『寺盤少尉** 

し世話をやいてゐた『寺織少尉しつかり繋むる。 学にはすでに<br />
振常品は<br />
準備され<br />
振腕大尉自ら何か

る、成功を祀るで、大財はうれしさうに少野

英本土爆製

リスポン

| 軸面は県然六規模な攻勢に出で福 | 脚面はこれを設すして目下破職展 | 一を軽級した チュニジャ脱級西部地區の反場然世四日酸級の賦況報告次の通り 【ベルリン廿四日同盟】藤蔵大本 チュニジヤ西部激戦

W 世四日同盟コンドン來は一英空 W 東省は類場質積除廿三日夜ふた~ W 東省は類場質積除廿三日夜ふた~

## 中澤挺身隊と呼應 敵重砲陣地爆破

られて來た、寺澤雅身隊はさきに報ぜられた中澤挺身隊と呼應して征途につき 相前後して同方面にある森川賢司陸軍報道班員より 寺澤挺身隊の敵陣地爆破の壯烈な戰闘模樣が傳へられ一億國民を奮起せしめ、米英縣滅の銃後の結束をます。 (関めさせてゐるが、廿四日【東京電話]南太平洋に挺身するわが精鋭の鬼神をも哭かしめる活躍はしば ( ~ 鈸後に傳へ 任務を完了したもので隊長以下五隊員は次の通りである

時同じく揚る二大火柱

長 陸田少尉 陸堡伍長 加 (愛知期一 寺 (離問層志太郎曼太村保祁島) 一班 藤 京 一型 海野一ノ宮市大学問野宇山王)



比野兵、木下正光上等兵

少尉、加藤京一伍長、高橋三名第一(右上から)寺郊孔一

比りつけてあるやうだ「最後の別れだ、 こはまた消える のとしいでれ 一 心のどこかで

はりが無気味にジャングル地帯を流れ数配弧の作 欧の飛行機は頭上を烟管高く飛び廻りエンデンの の身間にそくくする感じさがこみ上げて來る。

陸軍上等兵 兄姉の餌、腳裏のなかに消えては現はれ、 、は廿六年夢のやうな人生であつた、母の顔 古 木 (岐阜原本集部) 正真

て五人の成功を示るため みるたびに五人の眼頭が熱くなる。除金員が振っ 所を叩いた「陳長殿御安心下さい、寺脳の命の た、やがて既身際五人を中心に自食が始ま 兵隊たちの買心こめたガ島料理である、御飯を

しい威友愛、その戦友愛のためにも是が非でも成 水のやうなお粥をする

んなうれしいことはありません、日本陸軍隊統の一家長殿、自分はよい死場所を興へられましてこ 『病央な仕事ですね、少島勝』関にゐた木下上等攻略精神を十分に殺地します』加藤伍長はいつた いって震朦朦長は一同の決死の顔を見廻した 今や末ツ子は强し

朗々吟ず兵兒の歌

着を歌ひます』古田上等兵は立ち上ると1両指手《た、側壁喧闹の中のこの抵撃、鷹螂も一時島をした天力た、「鷹巌峡長原、自分は寺郷世身峡の姫。 天にもといけと馬處を彫び低多峡の征途を駅離した天心・「鷹巌峡長原、自分は寺郷世界神 を取替へとはる」と高概兵長はちょつと首を傾け つめたやうに思はれた

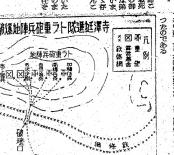
## 警ふ十五日 の決行

**吹きつける、 州の道は一歩も進めない。 今夜は陽**の味きつける、 州の道は一歩も進めない。 今夜は陽 味は少計を先頭にジャングル地能へ飛び込んだ、 「十五日までに決行だだ」「しつかりやれ」 **興暗である。** 雨は翳のやうに の中、第一展望點で中選挺身隊と別れた寺選挺身

の中で野宿だ、少酔は大木の根元を見つけてそこ 色に光らせてゐる、次第に近づい けに思はれた、 メーンまた配つた。近い度中電腦の光は雨を風

聞えて來た、『敵の斥候か知ら』少尉はいぶかし 方を照して 進んである、 解校一人と 兵隊三人ら 使中電燈をつけた

はいはねど心の中は相通じてゐるのである。 の國花楼花のごとくはつと散る、最後は肉頭、 んでかくつてゐるのだ「靖國の社で會はう」口に この部下がをれば成功疑いなしとい 朗々と明ずる兵兒の歌、既身際はすでに敵を吞



「寺窓世身際、裏蔵」郷藤隊長の首頭で一同は

もんだなあり少計は厳心して眺めてゐた、 を従らの頭へ浸みこませたのである

少龄は部下を交

る、しかもみんな限切ってある。今のうちだり計 て石手に他が三門左に棚舎が二つあり前に鐵係網 互に敵城地便郷に派遣した。みんな判ったか、向つ 自慎重に大幅に行動せねばならぬ」といひ渡した と地雷を仕掛けてあります。けるは朝からしよば その附近の狀況を依察して來い、 は決心した、明十二日夜年、いより

うにから~と笑つた『五尺の小事と歌の大砲と 兵は顔を寺然少尉の方に向けていざとなれば爆撃 とともに敵の国盛へ飛び込みます」とさも否頼さ

ろかされて十日の八時頃漸くトラ陣地の見える草 眼前にあ んにたくかれて尿におど

原地に現れたいよく一近ついたが、時は丈なす ŋ 南海の太陽は眩しいほどもかり

E・他ニセ章 (財終) 種関終制法令解的 おの 農衆 次 野糸葉・朴葉・他:○斉、商品質) おの 農衆 次 野糸葉・朴葉・他:○斉、商品質) ・他ニセ章 (財終) 種関終制法令解的

イヤモンド配鍋

HI

原光雄著

爭

法

(國防科學機関ラ) で記さ

した、微噪地はすぐ目の前にある、三門の砲口が延草をかきわけ匍囲して頂上に上りトラ闡地を監測 氣味に此方を向きその撤還に数の歩哨が口笛をふ きながら密观してゐた、何を歡观してゐるのかぶ し歩き廻うである。マンキーつて容気な 合へ汗が背筋を流れる、五人は燎撃、第火箭、マツ されがむかくと四邊をつくみ、 さる、新いほどの熟さである、温氣を含ん定節い 心と不眠不休の疲れた身種は太陽を浴びて横にた

・他二章(経理解)を計・出納(工場解)

イヤモンド配編

Will.

**咖**种井良太郎著

くの時職・海職・空職・中立の各法規政職大東亜職下網及の一種は知なしてゐなければ、大東亜職下網及の一種は知なしてゐなければ、

スキャンエ 一田義算著 製 安平政吉著 刑 安平政吉著 刑

身近なら發明を生んだ話

なる地想 好解度漫軍治

映えてゐる『命令を避する』少卧は低いが力張い つきとこを切開くかを開査した。暦台下贈しる草の中を匍匐して系幣地館のある低數策略 六時通りには夕間が迫り戦地は夕陽を浴びて赤く 大気はあくまで背くそして深い、少別はむつ 行く、銃砲銃は遠壁のやうに難いてゐた、意と ふが歳の歩哨が真上にをりながら暴づかない。

( ) ( )

li)

理細要回回

正史**《** 

日前中食業階、駅びに刊宮田 ・ 本の 「田里方」とゆふる乗び、窓 ・ 本の 「田里方」とゆふる乗び、窓 ・ 窓 「田里方」とゆふる乗び、窓 ・ 窓 「田里方」とゆふる乗び、窓 解測なる層の能別から表生法ま を映配してお出してさい。 を対象に、ヘガキに「病 が、のガキに「病 癌の病に脚 癌要方へを で語が終ると一間は宮城を 通路が終ると一間は宮城を 通程 と一同を代表して部隊長に到し

議論が鉱出するのは身近に戦の息 そ国家皆兵の真意器に破すべきで ンドンにあつたらとしたら、髪し 銃砲火が毎日落下するモスコーロ ある。今に於て斯の如き低額なる 弱又は体が悪 がフシギー病 アフシギー病 一供の出來ぬ 人出來後惠 お使り下 淺

治は何人であるか、殆ど全部とਿ

國に於いても、女群の大部を後用 してもよい。変配図、既に最近米

ふことが分つた 米國式斥候に爆笑

式下院といふ、その下院は相手方の財況を探るのか』と古田上等兵は聞いた『あればルーズベルトか』と古田上等兵は聞いた『あればルーズベルト でなく自分の身を譲る斥候なのだ、そして自分の パーン、また接続した『馬鹿野郎ツ』高橋長長 ↓ 祭へば『ありや何んだ。 斥候か、巡査

位置を敬へ、進む方向を敬へて全滅を待つてゐる、

面目に説明して五人を笑はせた「敵の作成要務令

で切り揺ぎたがら目的地へ進んだ、ジャングル内 は傷んだ、敵の道路を避け協石を綴りに道なき道 雨の中で爆笑が起った。夜が明けるに従って雨 る万温

進んだのである。その間渡回となく敵の斥候で見方を徴戒しながら大自然と眺び道路なづくりつつ り進撃は困難だ、遅々として進またい。

大 ゾァンデン

リボッシュ

計著

新

TI)

一般に發見されては水池に確する。それは一行前は挑脱と演響時だ。折角ことまで進

ゆくと小川のほとりに都會を張つたあとがあり、 ト治観に』と曖昧をあけて牛肉を 部下で誘導して來た『これは消離い、ルースペルはつきり見做めをつけた少野は、小川のほとりに つも繋がつてゐた、敵は撤退して一人もゐないと 「をかしい」注意深い少別はなほら開査を進めて

高見 順著

とり・ムオ 被罪

タイ・カンボヂア・ラオス週歴配

リー・トー に詳述し論評した絶對に他の追隨を許さ以權威書。 に詳述し論評した絶對に他の追隨を許さ以權威書。 に詳述し論評した絶對に他の追隨を許さ以權威書。 の植民政策・敦育・高業・日本との關係等その他既存の全

Ter.

米內山庸夫著

本實養潛

クをのみ、コーヒーをのんで英気を置つた、 上陸以外の柴薬分だ

遙かに決行の申告

崎 農著

号月5 錢八世價 個一 等級 館 文 博 生乳道路 一点 一点 一点 一点 一点 一点

係別科無「はにるなと母」 毎 円年円

## 旬五 發月 **資**下

武士道論攷

楠 發月 發月

古賀 城塔 間里・八〇 〒11〇 に 日本人のもつ面となた本本書は、新春郎町上の となた本書は、新春郎町上の

格文一區田神市京東 七〇一五四京東替提

黄下

中村孝也著 ₩ 11.40 FIJO

に、その草生保健の確立が充分一般の盲八十度治療回であって、 到つた。このことたる全く生命

しこれを大にしておへても、そ 遊ずるものとして志向さるくに 一人の生命の間域であった。 遊であつた。然るに現時はその になされ なくては ならないの

健民運動の國家性 たものである。今日國家は、一 概を完全に過去の彼方に放断し所謂國家的生命概が個人的生命

の一人ではない。十、百、千の高 度な獣を生活する生命の「」」 手してゐる日本に於いて『一日 以て十に當り、百をこなし、千 浴あるの その「一」の回憶 はかるべきは勿論、早寝早起、早歩、登行等による魅力の増弱を 野人をなすとか、常に衣服の潜 こムに於いて武道、陸操、

た自らもさう称へたものであ りと数へられ、ま

医衛生の追が数ぜらるべきであ 条保持、住宅へ道路の満様、 ない。母性は健母たるべく については、先つその母性の

殊にそれら母子への衆後の配給

性を持つ、政府と議會との一

1、境、平原永區(Fo)项、中村如

答图"以新"示城三类"山現

米人飛行士 の死刑當然

)新良豐隆四十一項, 光永光流

四村折太阳(水上)現 行陽級(小

鬼型戦下、量軍將兵征きては統

らうと國民も 政治の 施策に全 運動の推進などは國内限制を本

伊全帽支持

の新圧はかくる意味において最も 期待されるところである、だも東

るが、廿四日特にファシスト階系

あげて会幅の支持を表明してあ

售の指訟についてはイタリー朝野 【ローマ廿四日同盟】日本軍の非

つた転である一時部、山崎、大阪 今次改善の重點となってゐるが、

共に数を知らね

飛躍せしめたものであり、

における皇道外交の意窓な確立と

東條內閣再發足

から脱炭したアイルランド戦命軍大権には最近ベルフアスト砂務所

「一部目行師電下遊職療家養疾」突如ベルフアスト目前の大価の映 ・ 日本の「神日行師電下遊職療家養疾」突如ベルフアスト目前の大価の映 ・ 日本の「神紀療滅した西温寺部族は1世回日 ンド共和軍」の武裝鉄重は1世四日 と歌く鞘熱の脳彩を覗いた ・ 加ランドは毎の帝國主帝的後路載 ・ カールテンドが、なかんづくマツカティ」んどて可望であり、変画と共同で ・ 加ランドは毎の帝國主帝的後路載 ・ カールテンドが、なかんづくマツカティ」んどで「知道であり、変画と共同で 【ストツクホルム廿四日同間】ペ ツカテイヤが姿を現はし各繋締を 米軍もこれで と 大き かっぱい こうしょう しゅうしょ ストールとマ はた 第5章 マステイヤが変を現はし各緊縮を 半と表演の個に駆撃が開かれるは、 「握つたが、なかんづくマツカテイ たど不可避であり、英國と共同で ・ 大西洋海軍を作成した米國はアイ ・ というでは、大西洋海軍を作成した米國はアイ ・ こんでく 莉労 ) おき・ 日・

方の山田地部に成立を紹介てあるが同和家三師(孫氏代金郎)がに第四部(孫天江月東)の第一馬は随其西北の都村四寨街近でわが新郎に神法されるや最歌の近郊に駆うてある。

豫省策削級廿五日同盟】わが北進部隊の臨洪計划突入にようて新越第五世の財務部隊は臨洪西

臨淇西方に殲滅戰展開

萬を捕捉

附近の山岳地帯に設定をついけてともに臨洪西北方十キロの田家井 軍長局法吾は僅か十数名の手兵と遊部隊によって鏖敗的打撃を受け

撤退を要求

如胃少將外英兵三名を捕虜とした

民悲つて國の貴重なる人的資源

では不充分である。真の健民は

敵隊長ご英 兵を捕捉

でめる。そのかみ身態製造これ

包圍鐵環愈々壓縮

各部隊に旅長級の少將二名(姓名

擊滅作戰最後段階へ

と飛躍 は國家の絶對的要請となったので

中の片村、笠原、村川の楠郷路

勝の質によると第廿七世第四十五

され、今や歌大都殿の投降も必至 不詳)が多数の部下を率あて投降

の測能中に適入せる敗走兵約一千

東北方の南平、田家井附近の省境

【山西南部前線廿五日同盟】臨洪

投降者續出

十軍の敗走部隊を捕捉、これ

**激動構造中の脳井、市湖、資柳の | 四日石井、西部寺らの各部院に第 | 東第四十五節長胡長青の献死など** 

の廿五日朝に至るや全く版意を要

第五軍長孫駿英の投降、第二十七第五軍長孫駿英の投降、第二十七

第四十軍長敗走

國際情勢に対應し、内國内監制

決戦施政へ戦力推進

目的の完逸へ國家の總力を最高度 の機能刷新をはかりもつて、減事

に破壊せんとした布峰である、

以來一年有半に及ぶ世際政治の

四十軍遊戲板隊長侯如爾少將以下

北番井方面では村川、鷹村、笠原・宮によれば寒四十軍主力もわが西北番井方面では村川、鷹村、笠原・宮によれば寒四十軍主力もわが西北番井方面では村川、鷹村、笠原・宮によれば寒四十軍主力もわが西北番井方面では

運用と戦争指導の登際度から局納

いた、仰向きに覆縛んでは緩條数で切断し阻割し した、四人は草の中を匍匐しながら鰯條網に近づ

組閣早々にして昭古の大版を迎る

されたいはば東條的英凱であった

兩國の

日泰共同コンミユニケ發表 結束再確認

四日午前一時ごろ敵第百六節のとなって漫談されてゐる、即ち廿

※田(7月井南方)附近に反脳し來

好機到來とばかりわが

作戦に自信を失ふ

は大きな意識があつたといへるか

る程の餘裕はないと見えて最初一

最近は流石に敵側の中にも、

米太平洋第一主義

的打撃を與へた、また他の部院

抵抗する敵を逐次西南方に影響し

化として各方面から絶大な欲迎を

ドイツ外交陣容も最近前後二回に

則論を再燃させてゐるのも實は、

直つて劇期的な大異動が行はれ決 一端を知るに難くないのである

的な外交陣景の祖化を見て東光氏 戦外交の構へを見せてゐるが、 過酸の内閣改造によって重光外相一報質等の繁選者である天羽氏の歌一

任を見たことは、我國の決戰監制 に或る大芸な力を加へた駁を使か

んと死物ないの反脳を試みてある

し廿五日午前八時次の如き日際共 東亞相と泰國首脳部との會級に関

数次にわたる空段をなし世界全 数の情勢を検討したる結果、決 政の信等方名必勝の信念と共同の 関命に立つ画園の結束を貞確認 し、敵等完造及び大原記建設の

関命を遺憾なく競揚し、承韶必問

して軍官民組國一致前級、銃後の

とは一に御被威の然らしむるとこ の観略艦制を完成するに至ったこ

ある、今回の改造がかいる要請を

|出日と我に軍大松を加へ、從ライ||歴郷の慰謝なる整飾と世界的助し、最高方針がこれにようて豊かも職の鬼陰解ならびに今後の愛服||曜力増売を中樹とする忠慰的國内||才でに導べた通りである。帝國の

血戦記續き

電が高らかと響くと五つの黒い繋が敵職地へ を「終長終之うします」五つの黒い繋が敵職地へ 少数は途中まで一緒に來た木下上等長にささやい 成功、中澤挺身隊も

の数もなく敵地は眠つたやうに動かだ「最白をや中をそれく」目的物に向って強んだ、天俗か敵兵中をそれく、目的物に向って強んだ、天俗か敵兵 五人は わが ことのやうに喜んで腐骸を叫んだの

つたけれども総配と高射砲の敵と向されて欧

れることなく完全に切断し終った。取の歩

『次の類係網を今のうちに破場せよ』突如少勢の

全國各地票店にあり

間がドラミン

【平洋電話】自職員指則委員會で は候補者を慎重吸適の結果廿四日 平澤邑議推薦候補

大戦心勝の乗機へを内外に一段と

的関係において果敢に解決されて や無に管媒が改まりぐお手削けた▲しかし、一度喧嘩口輸にな して盛り場を必めき歩いたり **江戸末期になると、** 武士の類風も落ち 下、世話な言葉を

ク野郎もう一遍いつてみやが

に夢中になつてゐる酸陣盤内の一 以上の論旨は分り切った常殿館で あるとはいへそれが目下破後問題 ればかりか、學校や病院を宣 考へられる祭養問題がやはり體力の經濟點と | 報報であるとひとしく | お鳥は經濟戦であり消 病氣は早く治療の轉歸機績する時は、大概の され消化吸收 胃腸がありあ もしドシーへと栄養が基本となるのであつて 人體の故障「病氣」を 微生物製剤中の

大阪·東京·京城 證 鑑 野 義 商 店



服用すると 病弱解消す

所究研菌トスープキルマ語学来遊都定

ある

どのひと

痩せて

■ 1 年 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日 日 1 日

を未然に阻止する!・

心臓麻痺の危険發作

第七文 (2年) 例源《 配和拾八年**2**月 四門造株式會村即建

過高血壓を溫和に生理的自

に對する作用は著明にして

●腦溢血·狹心症 然位に低下せしめて…

和光八年参月流行参日登记 保護和光河等月流行参日建工之 明和光河等月流行参日建工之 明和光河等月流行参日建工之

極快せしめ………随伴する

の不快をも鎮靜せしめる。 頭重、眩暈、逆上焦慮感等 しめて綜合的に頭痛症狀を 数を解き脳血流を圓滑なら 共に脳血管の病的緊張と痙

鎮痛・鎮痙的に作用すると

毎で精神の休養がと

した血液が浄化されて、内に酸酸した毒素、老っきンを一貫一味酸が

安靜と榮養もこれあつてこそ=

記公告

治療の第一條件は 酸性血液の浮化!

が交部々芸術民雄氏は特派大便として隊員特命全地公便服団

同光大勲章を顕進申上げることになり、目下來朝中の同國

の、外交部血洲可長確避元氏ならびに

二十六日宮中に参内 天島世下に臨見切付けられ同動宮

揮星申上げることになった

同光大勳章を捧呈

**猪國府特使けふ参内** 

をし、一川野

局をいたく感激させたのである。

萬の限召を軍需金服の散納に具現

層像、午後一時からは白衣の男

りとなって本年 のトラツク献納

で開放米英の政艦に必中、

期散納の山を見た民衆が既に罪

持つなどもつての他だ、戦ひはさ

明れ盛國半島の面目を贈らうでは 物も刺さず陸海軍に散納して天

跳ふ絢爛さで緑展げた垣人接護に の慰安演藝春、櫻花と

れてゐるのではないか、飯の扉が

運動に限へて銃後の赤城をその献表々は関しくも想ひを深めて軍猛

| 遠に沈む歌と共に注答として敬華| ヒモれ・ ~ 韓自を葬しが 一級金鵄| 感謝歌仰の意を現なナ中を、曾て| 平津作戦中には戦未突撃を撃滅、 二日山口澤野中将以下四将屋と共| 少野等の武勳を観んでその英悪に

[春川寛語] 大東亞権威において「整國の英義と化したわが海軍航空、戦略を賜はつた。斯で整治が同じ、東川寛語」大東亞権威において「整國の英義と化したわが海軍航空、戦略を賜はつた。斯で整治が同じ、

遺蹟を帰堰に飾ってひたすら少勝 報氏を助へば、氏は少將の面影と 暦川邑内に土木鵑鱼業を選む山中

と「風國の興殿、際に賭けて鳴ぶ

**ש**如として走ってゐます

売地日隆地で

反干円

盛り場の間店街などでは物々交

の確立は近項目をし から『公正な配給』 へと 物資配 給飯部 ☆……『公平な配給』

ものですが、まだ

ゐると似へられるし、手腕家の 拠といふやうなことが行はれて

た側子では本質に心細い話です

加來提一

督る

の宮に一萬九千九百八十七柱の英 と口誦んで見よ、この客にも傾回 ☆……もう前うの難には間の

田の土は半台のるだけ参らんで今年の対域の機能を持つてある。実の底の機は光り流るる際の機能にはらはら上野るる場の機能にはらはら上野る

牙が若いみどりいろに崩えて

れてゐるのだ たれは浮 る。思へは今日も眺ひは般は にはいいが上の深さが想はれ

野に行してその行を拭くひと

な…… ケテツチツチツャ クタ の農耕 百萬石のお米を立張に作って ある。今年こそ目標語二千八 人の心は唯一筋合年の増置に

シ、タシ、タシヶ中を助ます

職もないのだ「雲蘭=京響沿 心意氣はその犁の燃先に光る 戦地の兵隊さんへの機跳とし

はこれで二回目の敷間で軍事接種

末日までは一萬國の献金方を照明 うと紹和會下開文部では市内三萬

医病院で 歴安と 脳器の 一日を過す

や単述を造つて第一版に送りませ

部員の赤誠協和會下關支

はるかに突破させるの定と意気 したところ、四月廿日までに早く

道にて振すし せうと協和留下開支部女子青年監や順で感問し感謝の真心を贈りま 協和會役員に引率されて、下陽陸三十歳名は五月二日午前八時から 人です、白衣の勇士遷を朝鮮の吸 【下院補話】奏達も墨図女性の一 勇士を慰問

生共死の決意を固めて戦ふ新生中 行十一名は、廿五日の「大陸」で学 平陣圏に投じた第二方面軍総司令 府陸軍部部長鐵鐵上將並に昨春和 國の國軍統帥に重置を負ふ國民政 上際ほか中國將校内地配祭園 良跛上將、蘇豫海區股婚總司令 今朝京城通過、葉上将の車中談

運動の 一類を贈うた 鮮然局 二つの催し――軍人援撃精神節傷

物も刺さず出さう

金屬献納に示せ半島の熱意

凝然たる心の修練に時を過した【写真=博文寺一味館の別月茶館】 元のひと掻きにいつか花の顔ひもぼれよう、正午から始まつて午 日開いた、名流婦人や茶道好みの士八十名を集めて、花に浮かれ である。

昭和十八年度電話至意開選申談の 村は來る五月十日より十四日ま の五日間と決定したが、本年度 電話の申請

原可の複雑で前年度原可されたや 導國防上叉は服力増强上特に必要 中度より更に微少の見込なので軍 際類並に資材の開係上架設敷は前 を築記、汗はむ額を拭ひもやらず

機能は科學院建を閲覧して午前の 午後の組は五時に総つ

計正 廿二日附朝刊揚載の京城府部立 候補氏名中 『中村神仏 (新)』と必るは『中村神一』(第) の反對である 進計器に対する労働者側

産業別糾解可識系の自動車労働組

作 修 書 學 核 校 殿 野 些

支部募集

を開始、同工場は操業停止のやむ 電約一萬五千名は廿四日から撮票

能築労働者は米國

Walto ウインザー飛行機工場分離

この日極の花の人出に賑ふ日曜。

ダリオ州) 死竜=カナダ最大の軍 ス廿四日间盟』ウインザー

スティン

私の治困

困

28

| 定成年間曾経了日色様式/名飛道順間欄/經察名義書換停止公告

株式名等。明日 徽 造 株 式 會社

謝家屋類燒御見舞 間 田 萬 金. 治 治郎

廿九名は京城に初盛の一夜を明かし廿五日午 4社主催第五回全鮮壓強代表驅地參拜團一行 で見郷つて戦時下にも聖地為 殿で各病様を訪れ

さん如何ですか」と概を紅 男士も病床にゐずまひを正 のは、病様外に整列した事 を訪問、藁々しい揃ひの 定義し金本君一同を代表 逃げ惑ふ敵 同盟 今來敞第二十

> はこれに對して低密酸酸を加へ、 地上部隊の作威を有利に導き、か

> > 最も公正な好の似而を行ふやう概力談と相談の上町會を通じて

世8篇

於子相登山同時

容が深るわけです

の難状を緘擬げてゐた、完潔部隊の数が狼狽な字所を知らず大迎覧

門の中には透場を失つた一部

合ではハテどうしたものかり

で行ってゐたさうですが公正を

と類が捻つてあますが、近く所

2菓手の頭で 勝へ和やかな 威酸酸間 行を終 で押すれば男士も「いや有嫌う /

特別大郎は挑しく御前に参選、町光大動館ならびに正王帝と

受くる。天路性下には親しく精特派大団に脚見仰付けら

行とともに宮中に参内、徐良大田とともに開風間に参進分宿舎帝國ホテルを出張宮内省参廻しの自動単にて職員

が開業部隊は廿四日

の前に潰滅狀態に陥つた数の最後 上を行く照開滅蛇〇〇部隊の奮威

間者はこの日感敬の荒濫に同衆地

チカを順次粉碎 やがて機は臨其征地の上空へ出き 振つて陸上部隊には別れの挨拶をくて航辺の時間翼を左右に大きく

城と要塞 行發社開新日朝

表者久保商 成事 章

御禮申上候 明鮮 商 土 株 全曜日子五日 一番地 人戚赤 赤 沼窟 會









薬を教へます 新東公司三//部 はと言うと さる。東京市が高います 薔薇の花の意匠で有名な・ 興亞化學工業の力作です. 南方從軍作家現地報告大護演會は一う當局は希望してゐる **變現地報告講演** 本社後接で 廿八日から開催

既報の通り本社並に殿盟、朝鮮文 定で演題、戦演期日など次のやう るが一行は廿六日東京を出發の豫 【東京電點】娟國神社臨時大祭舞 感激の昇殿参拜 靖國大祭第二日

に待つた昇殿参拝の日だ、白髪の 抱く単國の表達は午前七時から響

完勝

死貢献

レー文、和平陣盛に参加した窓路 の開る

日本と中國が仲長くするという

と立張に望人として、私 である、從つで、私 である、從つで、私

2 と廿五日午前十時半から分會

際安運動會を開催、無邪氣な幼兒

科墨日本の少年少女の教験に省る一差り、全様は々話地に勝つたので

きのふ 先生達が講習會

月や

に死力を振したい

科學への道探求

て懇談、午後三時敬舊した

國参派長有富大佐の時局議演あつ 年度総価を別言役員改選、京城師

ぜんそく

の方とヨクキク部

聖録贈呈

長久所派祭を剥行、ひきついき本一時から南山乃木神社で皇極武運

京城山口版人曾では廿五日午前十 山口縣人會總會

一一日まで、毎日年前九時上の中書が出門が上海の大集會所入 二階間が上間が加州の一一階

本 笠 産婦人科 ※ ※ ※ \*\*\* 省本5912







の水めて止まざる獣魔であり、大鬼臣配単に勝ち扱く舞台展の必須産業なのだ、こゝ西鮮の一

概は附る附る壁夫は走る、戦争半路の難作は大東型競争の脚光を大きく浴びて「そうち繋撃

大東亞戦争舞臺裏の立役者

生擴を呼ぶ鹽造り

增産計畫

ら鵬を輸入する船舶は他の用要

古の麗 らる』と孙吉出る湯水の如く思う 田が、一様に海水を貯水池に取入世界最一の勢獣は続しいのだ、事して「馳ぐ」で何子、何萬町歩とうさく天日戦

たり、空気や太陽と同説するのは

れ、取入れた海水を第一蒸酸池か ら第二類砂池に送って、観水機箱

た理由は第一に土に恵まれ

戰爭死亡傷害保險取扱關

整然たる圏田の道路にはガン 東城
頭田は世界一の
頭田であ
域に世界一の
頭田が造成され

先づ自給自足から

地を露山もち、縁起力の緩和をは

に今もなほ昔ながらの大自然の感

の貴城鹽田

るため明治四十二年から際作の銀

適地と頻繁に恵まれ將來增重の餘

戦である<u>製</u>魔は三千年の歴史と共 增産敢鬪譜 鹽まみれ汗まみれ

東京海上火災

出 支本 張 店店

札(幹) 京都 · 羅北 · 天 津 • 孫 ロ京城 • 京京 • 上海 京城 • 新京 • 上海 東京 市丸 之 内 (東京都上ビル)

iJ

鹽の出來るまで

【上】解水溜から結晶池に解水を扱み上げて!【中】結晶池で蘇々採醐作樂右下】出來上つた食棚に包装してどしく「八瓜へ

土は粘土でもなく砂でもない

数が高階した、この結果は明治世上に、規模も小さかつたため生産 た観然壁で製法が非常に幼稚な 鹽田の歴史

出を防止し一面政府の財源に査し

質局の機関方針による図

鹽夫こそ時代の戰士

こそ一握の際にも心が配られ お待ちなさ

フンスの田舎に一日一人七瓦を 風は、ゆらゆらと描れながら、波

**撫は味覺の基** 

とだけはだしかだと思ひます」 務処太郎ほか2 一種数の消む



果樹園の傳説

仕の

部 勞 额行人 1. 目及數量 皇条二 D 基炭

シテ日田六リリ級 電路地 東 道じ、計絶、聲容が激劇解解 き人の情け、その二つを を人の情け、その二つを は、計絶、対し、 そこの一作に盡きる諸君の求める知言これが今日の映畵だ 金优系戶三原官第四 川谷 井坡田 日本第一英 武都子子戶部進移 廿九 B 封切 場劇城京 場劇草若 座治明 場劇塚寳陽



苦汁と石膏

西マグネシウム、 殿工製作、

鴨緑江を堰止

める

あたし、戦悟をしてゐるむ」

募

をよくせよ

版市東級高麗線正丁目 教樂株式會礼

惡性

大いなる祭 出

[126]

三芳 悌吉(繪)

實(作)

京日案内

鹽田の一年

「心臓りをしたといふのね。いっ

から、そのつもりで・・・・」

一白隣には、まだあなたが限一味

うむ。それはさうかも知れない。

ことにしました。あなたも一個に

耳鼻咽喉科 医学博士

AZIL. 製藥

化學療法劑たる本剤 ・化學療法劑たる本剤 ・定服す。おの病原法 ・定服す。おの病原法 ・変痛、養熟等症狀の ・変化と ・では、 ・でいる。 ・でい。 ・でい。 ・でい。 ・でい。 ・でいる。 ・でいる。 ・でいる。 ・でいる。 ・でいる。 ・でいる。 ・でいる。 ・でい。 ・でいる。 ・でいる。